

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日： 2026年 1月 1日

事業所名： 多機能型事業所
放課後クラブびあ／療育ルームいろは

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分		チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標		
			はい	どちらとも いえない	いいえ	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない			
環境・ 体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	3	8	0	個別対応で個室を使うので部屋が足りないと感じるときがある。短時間に利用児が集中するため情報共有しながら個別スペースを確保している。	11	1	0	0	施設外活動も取り入れ、個別に充実した活動とスペースの確保に努めたい。	
	2	職員の適切な配置	2	8	1	設置基準は満たしているが、個別支援、マンツーマン支援、2名体制支援があるため、不足気味に感じるときがあるが助け合って支援している。	12	0	0	0	どの職員さんも子の名前を憶えてくれて大事にしてくれる。人手不足なのかとても忙しそう。	
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がいの特性に応じた設備整備	10	1	0	個別対応で環境調整をしている。細かな視覚支援が施されている。構造上難しいときもあるが必要に応じて手を加えている。	12	0	0	0		
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	7	4	0	夏はエアコンがついていても暑い。ため、扇風機や冷却シートを使っている。	12	0	0	0	施設設備面で難しいときもあるが、お子さんの状態をよく見ながら環境調整を継続する。	
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）への職員の積極的な参画	11	0	0	業務分担や担当制を導入し、全職員が役割を持って業務に当たることができる仕組みになっている。						
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	8	3	0	定期的に外部コンサルテーションを受けている。						コンサルテーションの結果について、今後も職員会で周知し、支援に生かしていきたい。
	3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	11	0	0	年間計画に基づく定期的な社内研修、社外研修が充実している。						
適切な支援の提供	1	適切に支援プログラムが作成、公表されているか	11	0	0		12	0	0	0		
	2	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	10	1	0	フォーマルアセスメントを採用している。モニタリング用紙に複数人で記入したり、話し合いを行ったりしている。	12	0	0	0	事業所はとても頑張っている。外部（保育園・小学校）が手探りでオリジナル支援をしているので、第3機関が取り持ってくれたらいいと思う。先生方も連携を希望されている。	
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	10	1	0	5領域の支援目標に対して具体的な支援内容を示している。	12	0	0	0	外部の先生の学びの機会があればと思うが、事業所だけでは難しいので、第3機関が動いてほしい。	
	4	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	11	0	0	一人一人活動内容が違っており、土曜日には小集団活動を実施している。支援手順書を作成し、定期的に見直しを行っている。						
適切な支援の提供（ 続き）	5	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	11	0	0	個別記録の項目を計画のチェックリストにしており、項目を一つ一つ毎日確認しながら支援している。	12	0	0	0	早めに子の特性や支援方法を教えてくださるので、家庭でも対応しやすいので助かっている。	
	6	チーム全体での活動プログラムの立案	11	0	0	職員会、チームミーティングにおいて、常勤・非常勤職員みんなで意見を出し合って検討している。						
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	11	0	0	年齢や興味関心、季節などを考慮し、活動プログラムを検討している。	11	0	0	1	お子さんたちが飽きないよう、定期的に教材や活動を見直しを個別に実施する。	
	8	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	9	2	0	平日は個別支援、土曜日は小集団活動を提供している。長期休暇は、週ごとに活動プログラムを準備している。						
	9	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	10	1	0	朝と午後の支援前にミーティングを行っている。また、担当者間での報連相も随時行われている。						
	10	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	7	4	0	勤務終了時間が職員によって違うので全体ミーティングはできないが、気になる点はその日のうちに報連相している。また、困難事例は週1回チームミーティングを行っている。						業務中にはいつでも情報共有ができる環境を整え、意識した報連相を心がけたい。
	11	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	8	3	0	個別ファイルに項目ごとに細かく記入している。また、スクエータープロットなどを使い、気になる行動などを記録し評価している。						支援の難しいお子さんに対してのチーム支援や定期的なミーティングを継続したい。
	12	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	11	0	0	特に利用開始初期は必要に応じて計画を見直ししている。						

区分		チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標
			はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	11	0	0	直接支援担当者から児童発達支援管理責任者に詳しい報連相があがっている。					
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施									
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備									
	4	児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	8	2	0	保護者や園・学校から依頼を受けて対応している。					
	5	他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	10	1	0	希望に応じて対応している。					
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	7	4	0	発達支援課主催のレベルアップ研修やTEACCHプログラム関連の外部研修などに積極的に参加している。					非常勤職員も含めた伝達研修に力を入れたい。
	7	児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合は放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供	3	2	6	保育所等訪問支援では、障がいのない子どもとの小集団活動を支援している。	1	0	3	8	事業所内での個別の活動が多いため、障がいのない子どもと活動する機会は少ないが、利用児の安心安全を基本とし、個別支援計画に沿って個別に対応していきたい。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	2	5	4	ボランティアの受け入れや実習生の受け入れ、地域講師の依頼などを行っている。					イベント的な活動の実施はないが、利用児の安心安全を基本とし、職員以外のかかわりの機会を個別に検討する。
保護者への説明責任・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	10	1	0	契約時に説明している。	12	0	0	0	
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	11	0	0		12	0	0	0	
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	8	3	0	毎月Study倶楽部を開催し、テーマに沿って講演や座談会、グループワークなどを行っている。就労している保護者も多いため、出席者は少ない。	9	1	0	2	Study倶楽部が【保護者の学習の機会】であるということを継続的に周知する。非常勤職員にもStudy倶楽部参加してもらい、理解を促す。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	10	1	0	連絡帳や送迎時にお伝えしている。【共通理解】という点では難しいところもある。	12	0	0	0	
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	11	0	0		12	0	0	0	
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	6	4	1	毎月Study倶楽部を開催し、テーマに沿って講演や座談会、グループワークなどを行っている。就労している保護者も多いため、出席者は少ない。	10	0	0	4	study倶楽部が【保護者の学習の機会】であるということを継続的に周知する。非常勤職員にもStudy倶楽部参加してもらい、理解を促す。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	11	0	0	ここ1年苦情は上がっていない。	11	0	0	1	
	8	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	10	1	0	ソーシャルストーリーや手順書、視覚的表示などで情報提供している。	12	0	0	0	日ごろからよく子についてお話くださるのでできないことがあっても頑張っている姿なんだと受け止められる。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	11	0	0		12	0	0	0	ぴあ・いろは通信で専門的なことをわかりやすく書いてくれるのでとても勉強になります。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	11	0	0		12	0	0	0	
	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	11	0	0		12	0	0	0	

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
非常時等の対応	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	10	1	0	年間計画に沿って実施している。	11	0	0	1	避難訓練について、事業所入り口の掲示を継続する。
	3 服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況の確認の実施	9	2	0	保護者からの情報提供に対応している。服薬は書面で確認している。					支援に必要な内容について、全職員が周知できるようにする。
	4 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	7	4	0	現在は医師の指示書が必要な利用児なし。おやつ提供時に保護者に確認を取っている。					支援に必要な内容について、全職員が周知できるようにする。
	5 安全管理の徹底	9	2	0	乗車時の添乗や複数職員による対応など安心安全を心がけている。	11	0	0	1	職員会で毎月確認を行う。
	6 家族等との連携を図るため、安全計画に基づく取組内容についての家族等へ周知	10	1	0		12	0	0	0	安全計画に基づいて取り組みを行っているが保護者への発信は十分でないため、掲示や通信を通じて発信していく。
	7 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	11	0	0	積極的にヒヤリハットを作成し、職員会で周知、改善に努めている。					
	8 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	11	0	0	計画に基づき定期的に研修を行っている。					
	9 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	11	0	0	幼児さんの手つなぎや介助なども意識を持って対応し、身体接触しないで支援できるよう定期的な見直しを行っている。					